

植	物	
防	疫	
講	座	

虫害編-10

フタオビコヤガの発生生態と防除

鳥取県農業試験場 おくたに 奥谷 やすよ 恭代・ふくだ 福田 ゆうき 侑記

はじめに

フタオビコヤガ *Naranga aenescens* Moore は、日本および東南アジアに広く分布する水稲害虫 (図-1) である。本種は 1960 年代半ばまでは一般的な水稲害虫であった (宮原, 1972) が、その後急激に減少し、ごく一部の常発地以外では防除対象から除外されていた。ところが、2000 年ころから各地で本種の発生面積が急増し、常発地のみならず平坦部においても多発地域が拡大した (小谷ら, 2005; 衛藤, 2009)。鳥取県においても、2005 年に突然本種の被害が顕在化し、2011 年ころまで発生面積率 50~90% で推移し、一部では減収被害が発生し

た。この状況をうけ、本種は全国的に再び水稲の主要害虫として位置づけられ、2016 年に植物防疫法に基づく指定有害動植物の対象となっている。

I 形態

成虫は体長 7~11 mm、前翅長 18~25 mm の小型の蛾である。前翅の色は第 1 世代以後では濃黄色で、越冬世代成虫では暗色をおびる。前翅には名前の由来になったと思われる暗紫色の 2 本の太い斜線がある。雄の斜線は明瞭であるが、雌ではやや不明瞭である (図-1)。

卵は直径 0.5 mm 程度のまんじゅう型で、特定の場所に集中することなく数粒ずつ点々と葉面に産卵される。



図-1 フタオビコヤガの各態

1: 卵, 2: 1 齢幼虫, 3: 終齢幼虫, 4: 水面に浮いているツトと蛹,
5: 成虫 左: 雄, 右: 雌, 6: 越冬世代成虫.

Ecology and Management of Green rice caterpillar, *Naranga aenescens* Moore (Lepidoptera: Noctuidae). By Yasuyo OKUTANI-AKAMATSU and Yuki FUKUDA

(キーワード: フタオビコヤガ, 発生生態, 発生予察, 管理方法)